

にも通信

Vol. 08

令和4年度 第8号
令和5年3月吉日

にも
包括

精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らせることができるよう、包括的なシステムを構築していく取り組み

発行：相模原市精神保健福祉課

相模原市は例年より3日早い桜の開花宣言となりました。

旅立ちの春を迎え、日増しに暖かさを感じます。

さて、今号では基幹相談支援センターと開催した地域移行支援に関する取組と第2回精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進連絡会議（通称：協議の場）についてご報告いたします。

地域移行ピアサポーターからのメッセージもありますので、ぜひご覧ください。



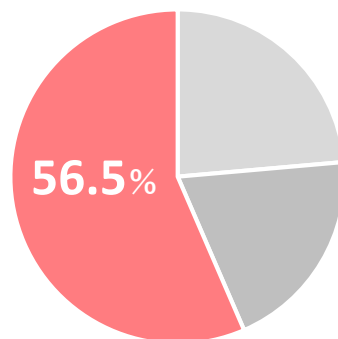
“ピアサポーターと考える地域移行支援”

地域移行支援とは、施設や病院からの退所・退院にあたって支援を必要とする方に、入所・入院中から新しい生活の準備等の支援を行うことで、障害のある方の地域生活への円滑な移行を目指すものです。※WAM NETより

相模原市内には6か所の精神科病院があり、全体の精神科病床数は961床あります。そのうちの586床（全体の56.5%）は入院から1年以上の長期入院者で占められています。ちなみに全国には約16万人いると言われていています。 ※1

相模原市ではこうした状況を踏まえ、「にも包括」の取組みの一環として、長期入院者の地域移行・地域定着に取り組んでいます。 ※1 2021年精神保健福祉資料より

1年以上の長期入院者



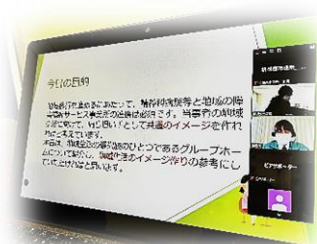
昨年9月には地域移行の実績がある市内精神科病院4か所を対象にアンケート調査を行い、病院訪問をさせていただきました。アンケート結果からは、①精神科病院同士の横の連携や地域の相談支援事業所との情報交換の場がない現状があること、②院内職員を対象にした地域移行に関する研修が必要、の2点の意見が多かったです。

①については、精神科病院と相談支援事業所が、地域移行の取組状況や進め方、地域の社会資源の情報等を共有し、意見交換できる場を定期的に設定していくこととしました。

②については、基幹相談支援センターによる意思決定サポート事業に精神保健福祉課が協力し、市内精神科病院の医療スタッフを対象として、Zoomによるオンライン講座「ピアサポーターと考える地域移行支援」を開催しました。

当日は、グループホームでの1日の過ごし方の動画を見た後、ピアサポーター2名からグループホーム入居の体験談や入院時の思いなどを伺いました。

参加者からは、「ピアサポーターからの生の声が聞けてよかった」など、地域移行支援の理解を深めることができました。





今号から、にも包括をより身近に感じてもらうように新企画をスタートします。その名も…

「〇〇さんに聞いてみた」

地域では「にも包括」にちなんだ取組が増えてきました。こうした取組を紹介していくため、実際に〇〇さんに聞いてみよう、という試みです。

栄えある第1回は表紙でも紹介したオンライン講座にご協力いただいた、地域移行支援ピアサポーターお二人からメッセージをいただきました。

ピアサポーターとは

当事者としての経験を活かし、同じ苦しみや生きづらさを抱える人の話を聴いたり、相談相手になったりする人のこと

※相模原市には8名の地域移行支援ピアサポーターがいます

ピアだからこそ
気持ちがよくわかる

私が経験した事が長期入院をしている人の退院したい気持ちの後押しを出来たらなと思います。

その人達の不安な気持ちを私たちも一緒に乗り越えたらなと思っています。

できることは
できる範囲で

マーティン・セリガンという心理学者が書いた「ポジティブ心理学の挑戦」という1冊を読み、地域移行を進めるに当たり、ポジティブな発言を意識しようと思いました。

よろしくお願いします！



令和4年度第2回精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進連絡会議

“協議の場に期待すること、望むことは??”

令和5年3月9日に協議の場を開催しました。「協議の場をどのような場にしていけるか」について、参加者の皆さんそれぞれの立場・視点でお話いただき、以下のような意見が出されました。

<p>意見交換の場</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの役割や地域支援の実情等を意見交換、共有する場とした。 地域移行や退院促進、住まい探し等、他の機関ではどのような方法で取り組んでいるのかを知りたい。 他機関と意見交換できる場にした。 	<p>事例検討の場</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例検討など実践を共有し、話し合う場にした。 好事例、困難事例を検討、共有することで方策を見出していく場。 	<p>活動発信の場</p> <ul style="list-style-type: none"> ピアの活動など、普段の取組を発信することで連携のきっかけにしたい。 活動や取組を知ることで、お互いにどのようなことをお願いできるかが分かる。
<p>情報共有の場</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なサービスや情報が知りたい。 各事業所の支援内容や活動を知りたい。 居住に関する不動産の情報を共有したい。 当事者や事業所など、実際の現場の声を聞ける貴重な場。 	<p>研修(学び)の場</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域生活の担い手である、ケアマネやヘルパーへの研修を開催してほしい。 他機関がどのような支援をしているかを知れる場があると良い。 仕組みやシステムづくりを学べる場。 	<p>関係づくり(マッチング)の場</p> <ul style="list-style-type: none"> 顔の見える関係づくりの場があることで、今後の仕事がしやすくなる。 精神科クリニックも参加できると良い。

地域包括ケアシステム構築のベースには本人や地域を含めた“顔の見えるつながり”が大切であることを共有しました。また、一堂に集うことで思わぬ気づきや奇跡のマッチングが生まれることもあります。今回の協議の場終了後には、精神科病院×相談支援事業所×生活支援課による地域移行に関する意見交換会が開催され、現状や日々の困りごとなどを共有することができました。

今号で特集した地域移行支援ピアサポーターを交えた取組みにも引き続き力を入れていきたいと考えております。ぜひご注目ください!!



にも包括は支援機関の皆さまや地域の人たちとともに創り上げていくものです。事務局では、地域で取り組んでいる活動や耳より情報、好事例などを広く募集しています。電話でもメールでも構いません。ご意見・ご感想も含めてお待ちしております!!

